

謹賀新年



発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号

志波彦神社 社務所

電話 〇二二(三六七)一六一(代)

FAX 〇二二(三六五)五五三〇

<http://www.shiogamajinja.jp/>



令和七年乙巳歳の本年、日本国民の総氏神である伊勢の神宮では、「山口祭」という神事が執り行われる。新宮造宮のための御用材を伐採する御杣山の山口に坐す神を祭る神事で、皇大神宮(内宮)は神路山、豊受大神宮(外宮)は高倉山の麓でそれぞれ行われる。第六十三回神宮式年遷宮、令和十五年までの九年間におよぶ延べ三十三の神事・行事の静かな始まりである。

いうまでもなく神宮式年遷宮は、「皇家第一の重事」「神宮無双の大営」と称される、我が国最大の祭典。当社社も氏子崇敬者各位とともに遷宮完遂のためあらゆる奉賛の赤誠を尽くしたい。

氏子崇敬者各位も、式年遷宮一連の諸行事で伊勢詣での機会が増えることだろう。静謐な神宮の神気に触れる喜びはもちろん、旅の途中に訪れる名所旧跡、あるいは御当地の食事も大事な楽しみの一つ。古くから変わらぬ伊勢詣での姿である。

『東海道中膝栗毛』は、江戸長屋の住人である弥次郎兵衛と喜多八の神宮参詣の道中を描いた十返舎一九作の滑稽本。江戸後期、享和二年に出版されるやたちまちベストセラーになったが、二人の無鉄砲な珍道中が人々の喝采を博したのは、伊勢詣での盛況や旅文化の定着が背景にあればこそだったのだろう。

遡って中世、漂泊の歌人・西行が詠んだ「何事のおはしますをば知らねどもかたじけなきに涙こぼるる」の歌は、「太神宮御祭日」に参宮した際に詠んだとされる。元北面の武士・俗名佐藤義清が天照大御神を知らなかったはずはなく、大神様の尊さ、畏れ多さ故の文学的表現と解したい。老若男女、古今の別を問わず、日本国民すべての神宮への素朴な信心をも表している、とは汲み取りすぎだろうか。

式年遷宮始まりの迎春に、今生かされている忝さに思いを致しつつ、遙か伊勢を拝する。



年頭にあたり

志波彦神社 宮司 鍵 三夫

令和七年(皇紀二六八五年)新春を寿ぎ、御皇室の弥栄と御国の安泰を御祈念申し上げます。

氏子崇敬者各位には旧年中、当社の神事・諸行事に御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げる次第であります。

昨年の年明け、元日に石川県能登地方を中心に発生した地震により被災された

皆様方、また、度重なる豪雨災害に遭われた各地の皆様方に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますと共に、被災地域の復興と復旧をお祈り申し上げます。

さて、本年は当社に縁の深い仙台藩伊達家の四代藩主、伊達綱村公が『貞享特令』を制定してより三四〇年を迎えました。この特令は、塩竈地域の発展と繁栄

を願ひ、神社と地域社会との結びつきを深めるためのものであり、今なおその精神は私たちのの中に息づいております。

東日本大震災や猛威を振ったコロナ禍にありましても、人々は互いに支え合い、助け合うことの大切さを再認識してまいりました。神社は、地域の皆様が想いを寄せ合い、共に祈りを捧げる場所

であります。神社が心の拠り所となるよう職員一同日々努めてまいります。

また、綱村公の遺志を受け継ぎ、地域の文化や伝統を次代へ繋げてゆくことも我々の使命であります。歴史を振り返りますと、帆手祭・花祭・みなと祭の「氏子三祭」など数多くの先人達が築いてきたものが今日の人々に受け継がれています。その想いを大切に、

未来へと繋げてゆくために、神社としての役割を果たしてゆく所存であります。

最後に、氏子崇敬者各位の益々のご多幸とご繁栄を祈念し、新春の辞と致します。

謹みて新年のご祝詞を申し上げます

令和七年乙巳 元旦

志波彦神社 鹽竈神社

代表役員

宮司 鍵 三夫

責任役員

阿部勘九郎 佐浦 弘一 鈴木 雄一 渡會 邦彦 阿部 仁 大瀧 博司



年頭のご挨拶

志波彦神社 敬神婦人講 鹽竈神社

講 長 宇 仁 一 美

新年あけましておめでとございます。皆さまには清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

志波彦さま鹽竈さまにおかれましては、旧年中の神事につきまして滞りなくご齋行されました由、ご同慶の至りに存じ上げます。私たち氏子崇敬者の心の拠り所として、益々のご神威ご

発揚を願うもので御座います。さて、当講は昭和六年の設立以来「良い人は良い家庭から生まれる」という精神のもと、活動の要である毎月の神拜行事・例会を通じて、家庭祭祀や国旗掲揚の啓発、皇室敬慕の念を養い、神社への奉仕活動、各種研修の実施、さらに社会福祉に寄せる心も育んでまいりました。先人から受け継い

だ理念を胸に、これからも神社崇敬団体として清く明るく楽しく歩んで参りたいと考えております。

とここで、昨今の世情を見渡しますと、時代の推移と共に「多様性」という文言を背景に、日本の麗しい風習やしきたり、観念に対する意識がやや薄くなってきたようにも感じられます。令和の時代に入りま

して、新たな社会情勢の変化に柔軟に対応してゆくことも求められますが、我が国悠久の歴史と伝統はしっかりと胸に刻み、敬神生活を営んで参りたい気持ちでございます。

- 総代
- 佐藤 仁一郎
 - 和田 忠
 - 志賀 重信
 - 水野 暢大
 - 鈴木 健史
 - 桑原 茂
 - 志賀 直哉
 - 津田 武彦
 - 菅原 宏和
 - 小泉 幸彌
 - 勝又 幸實
 - 下山 雄司
 - 土井 儀憲
 - 阿部 善久
 - 横田 善光
 - 内形 繁夫



第二管区海上保安本部長 長井 総和

新年のご挨拶

あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、第二管区海上保安本部の活動に対し、ひとかたならぬご厚情をいただきましたありがとうございます。塩竈は、古くから海の恩恵を享受し発展してきました。

た。塩竈の港は、時代とともにその性格に変遷はあるものの、現代にあつては工業、漁業、観光の拠点として、重要な役割を果たし続けています。海上守護をも司る「しおがまさま」は、港町塩竈と人々の営みを見守り続け、「しわひこさま」とともに地域の崇敬を集めてこられました。昨夏の塩竈みなと祭

は、「平安絵巻のよう」とも称される神輿海上渡御を祝うように、八千発の花火大会、大人から子供まで参加しての「よしこの塩竈」陸上パレード等街を挙げて様々な催しが行われ、その象徴とも言えるものであります。表参道の二百二の石段を上ると、いつも神様に願いを託す人々で賑わう境内を目にすることができま

そうした志波彦神社・鹽竈神社の「門前町」塩竈にあつて、私も第二管区海上保安本部は、今年も東北の海の安全・安心を守り、地域に貢献するべく、人命救助、災害対応、治安維持、海上交通安全確保等多岐にわたる業務に全力を傾注してまいります。引き続き当本部に対しご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、皆様のご健勝とご多幸を、そして塩竈のさらなる発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

鹽竈神社奉賛会

会長 西村 勝男

新年あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えになられたこと、心よりお慶び申し上げます。鹽竈神社奉賛会は市内北部地区（北浜・藤倉・新浜・杉の入・越の浦・千賀の台）町内会また地元企業様のご協力を頂き、維持・管理にご奉仕させていただきます。

新浜町にある鹽島・鹽竈社（曲木神社）は、鹽竈神社十四末社の一つで毎月一日午前十一時より「月次祭」の神事が行われます。例大祭は八月一日に開催され、前夜祭に合わせ鹽島のライトアップ・音楽の集いを開催しております。鹽島は塩竈湾内唯一の島として知られており、古今

和歌集「わが背子を 都にやりて塩竈の まがきの島のまつぞ恋しき、鎌倉時代には源実朝「塩竈の浦ふく風に秋たけて 離が島に 月かたぶきぬ」などの古歌に詠まれております。現在は、日本遺産「政宗が育んだ「伊達な文化」」の構成文化財、国の名勝「おくのほそ道の風景地」に指定されています。

鹽竈神社奉賛会は鹽竈神社と鹽島（鹽竈社）の歴史と伝統文化をはじめ、水産卸市場・魚市場の食文化情報発信できればと取り組んでおります。鹽島へ通じる鹽橋は、通常土日祝祭日の午前九時から午後四時まで渡橋可能ですが、正月は一日から三日まで開けて皆様の御参拝をお待ちしております。結びに、今年も鹽竈神社様のご加護のもと、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

- | | | | | | | |
|---|---|--|---|-------------------------------------|-------------------|---------------------------------------|
| 氏子崇敬会
会長 桑原 茂
副会長 水野 暢大
佐藤 良明
小林 克己
菅原 宏和
引地 利男 | 祭典委員会
委員長 内形 繁夫
副委員長 齋藤 善彌
志賀 重信
鈴木 金善
菅原 宏和 | 敬神婦人講
講長 宇仁 一美
副講長 佐々木良子
今野紀美子
千賀 寿子 | 氏子青年会
会長 戸羽 宏明
副会長 沼倉 安志
永沢 透
小林 史人
鈴木 整 | 節分祭年男女世話人会
会長 佐藤 一臣
副会長 佐藤仁一郎 | 御神田奉斎会
会長 阿部 仁 | 鹽竈神社博物館審議委員会
審議委員 濱田 直嗣
" 太田與八郎 |
|---|---|--|---|-------------------------------------|-------------------|---------------------------------------|

第七十七回 奉獻乾海苔品評会

本年も当社を会場に県内で生産された品質の高い乾海苔を御神前にお供えする「鹽竈神社奉獻乾海苔品評会」が開催されます。

生産技術の発展と生産意欲の向上を目的として始められた本品評会は、今回で七十七回を数える伝統のあるもので、一月六日午後三時より審査会が行われます。十帖一束約三二〇グラム以上の乾海苔を一点として色・艶・手触りなど厳正な審査を経て、優賞・準優賞以下

松明祭 (どんと祭)

一月十四日(火)午後三時より、旧年の神符守札や松飾りなどを焚きあげ、一年の無病息災を祈る松明祭を神社第二駐車場にて斎行します。古神符をお納めの際、環境への配慮から、松飾りなどにビニールやプラスチック類が含まれる場合は、外してお納めいただきますようお願い致します。



受賞者が決定されます。

一月十一日(土)午前十一時には、左右宮拝殿において関係者参列のもと奉獻感謝祭が斎行され、品質の向上や養殖増産、組合の運営などに功績のあった方々へ各種の産業振興賞が授与されます。このうちの優賞及び準優賞者は、御皇室への乾海苔献上という栄誉に浴することとなります。

出品された乾海苔は奉獻感謝祭当日に限り祭務所一階にて展示します。御参拝の折りには会場にお立ちよりのいただき、宮城県の数々の乾海苔を、豊かな香りとともに御覧下さい。

節分祭

二月一日・二日



毎年恒例の「しおがまさまの豆撒き」である節分祭。本年は二月一日(土)、二日(日)両日ともに、午後三時より左右宮拝殿において追儺式を斎行します。引き続き、袴姿で参列した年男・年女等が「福は内、鬼は外」の掛け声とともに福豆を撒き、招福と厄除を祈願いたします。

節分祭年男女世話人会

- ・佐藤 一臣
南町 漢方の塩竈芍薬堂 (三三二) 七八八〇
- ・佐藤仁一郎
南町 (株)ごんきや (三三七) 七七七七
- ・佐藤 武志
南町 (株)菅原園茶舗 (三三二) 〇〇二八
- ・郷家 照夫
南町 郷家第三歯科医院 (三三二) 四五七一
- ・松本喜八郎
旭町 (株)松本左官工業 (三三二) 三二七五

- ・鈴木 有紀
七ヶ浜町
(有)平蔵屋石油店
〇八〇(二八三)〇九九五

- ・菅原 周二
桜ヶ丘 (株)白寿殿 (三三六) 四一四一
- ・大友 義雄
桜ヶ丘 (株)白寿殿 (三三六) 四一四一
- ・高瀬 恭平
尾島町 (有)たかせさとし美容室 (三三六) 六四二〇
- ・古内 隆弘
港町 プリンス食品(株) (三三五) 六一八一
- ・古川 浩司
貞山通 (株)カネヒロ (三三六) 一一六一



令和七年 厄年に当る年歳

女性		男性				
36歳 平成2年生	32歳 平成6年生	18歳 平成20年生	60歳 昭和41年生	41歳 昭和60年生	24歳 平成14年生	前厄
37歳 平成元年生	33歳 平成5年生	19歳 平成19年生	61歳 昭和40年生	42歳 昭和59年生	25歳 平成13年生	本厄
38歳 昭和63年生	34歳 平成4年生	20歳 平成18年生	62歳 昭和39年生	43歳 昭和58年生	26歳 平成12年生	後厄

新嘗祭齋行

十一月二十三日、一年の収穫を大神様に感謝する新嘗祭(産業振興大祭)が御両社において齋行されました。

鮮魚

みなと塩釜魚市場(株)・塩釜市魚市場問屋組合・塩釜魚市場買受人協同組合・塩釜市水産振興協議会・(株)渡會・(株)ワタベ魚類・(株)菊池商店・ヤットハチ鈴木水産(株)・塩釜水産物仲御市場・八千代丸・第十八八千代丸・富山幸盛丸・誠喜丸・第五弘和丸

練製品

(株)ヤマス蒲鉾店・(株)直江商店・(株)大膳・プリンス食品(株)・(株)武田の笹かまぼこ・(有)増友商店・勝山水産(株)・マルブン食品(株)・(株)シーフーズあかま・(株)高浜・極洋食品(株)・水野水産(株)・(株)阿部善商店・塩釜市団地水産加工業協同組合・株式会社松島蒲鉾本舗

水産加工品

(株)阿部亀商店・岸柳水産(株)・(株)塩釜水産食品・(株)明豊・三波食品(株)・(株)ヤマカ勝又商店・(株)ヤママサ・ぜんぎょれん食品(株)塩釜食品工場・(株)間宮商店

清酒

(株)佐浦・阿部勘酒造(株)・

野菜・果物

塩釜地方卸売市場・(有)八百照・八百大分店・北浜フード

菓子

(有)梅花堂・梅果堂・(有)土井精菓・(有)ヤマギシ洋菓子店・海鮮せんべい塩釜(株)・(有)サントノーレ洋菓子店・(有)榮太樓

その他食品

蜂屋食品(株)・大森商店(株)・シヨップサトー・太田興八郎商店・(株)アベチヨウ・塩釜すし業組合・(株)十字屋・理研食品(株)

塩

(株)東日本ソルト仙台営業所

肥料

片倉コープアグリ(株)東北支店



嘉津良比祭

と「兜餅(かぶともち)」が御神前にお供えされます。

嘉津良比祭は、陸奥国を開拓平定された御祭神の三神を当地にお迎えし、その凱旋を祝い御神徳を讃えたことに始まる。と伝えられている神事で、「神迎祭」「勝来祭」とも呼ばれてきました。

この神事では、雉・アワビ・黒ソイ・勝栗・干し柿などのほか、櫛(イチイ)の葉に紙垂を結わえた「ミカツライ」

敬神婦人講だより

仙台キリスト教育院 七五三詣

受けたのち、社務所大講堂にてお祝い会を開催し、講員たちと食事や着付け体験などをして思い出に残る楽しいひと時となりました。

敬神婦人講では、社会福祉事業の一環として、昭和三十三年から毎年、仙台キリスト教育院の院児たちを招き、七五三のお祝い会を実施しております。

本年は、十一月十六日に「丘の上子どもホーム」ならびに「丘の上乳幼児ホーム」の子どもたちが七五三詣に来社しました。

当日は、七五三の御祈禱を



講社だより

十月十二日から十四日までの三日間にわたり、講社大祭が斎行されました。祭典には県内各地のほか、全国から多くの講員が参列しました。祭典後、永年の継続講員に対して表彰状と記念品が贈呈され、新任の世話人へは委嘱状が交付されましたのでここに御芳名を御紹介致します。

令和六年度継続講員表彰者

(敬称略)

- ◇九十年表彰 小林 宗三・鈴木 秀道
◇八十年表彰 水野 暢大・佐藤 文男
水越 豊子
大河原支部(二名) 森 千博・菅野 正信
◇七十年表彰 内海 三義・遠藤與治右衛門
高橋 重幸・秋山まき子
阿部 正男
大河原支部(一名) 高橋 敬太
◇六十年表彰 鈴木 喜一
◇五十年表彰 青木 靖・佐藤 一雄

- 星 光太郎
大河原支部(二名) 齋 ヒデ子・朴沢 丈二
岩出山講(一名) 樋野 精一
◇四十年表彰 赤間マリ子・阿部 慈子
大河原支部(一名) 大沼 啓二
◇三十年表彰 高橋 歳幸・紀野国虎夫
生長の家宮城県本部
大河原支部(一名) 渡辺 テル
岩出山講(一名) 尾形 良次
◇二十年表彰 小田島かつよ・小島 文寛
小原由美子・進藤 陽子
進藤 直人・進藤 大翔
進藤 真実・進藤 祐一
進藤 美波・丸丸太中村
齋藤 明弘・佐々木 真
佐久間禮子
みちのくフードサービス
城南会(二名) 片庭 篤・中楯美喜雄
大河原支部(一名) 可沼 勝治
大槌支部(二名)

- 川原 弘平・白沢 昭夫
岩出山講(二名) 布塚 讓・菅原アツマ
◇十年表彰 伊藤 秀紀・志村かおり
進藤 梨央・角田 雅信
佐藤 文孝・庄司 陽平
阿部 千晶
(有)丸健渡辺水産
青野 勝夫
大河原支部(二名) 遠藤 優・酒井ちや子
大槌支部(十四名) 小笠原健士・岡谷 勇
藤原 聡実・岩崎 松生
佐々木慶一・福田久美子
佐々木安教・丸山アイ子
尾形 洋子・竹内 勇
千葉 勝見・甲斐谷久孝
坂本 宣王
セブンイレブ
おおつち御社地店
世話人委嘱状交付者
田中 瑞明(大槌支部)
佐々木安教(大槌支部)
三浦 文子(大槌支部)
天野 昌喜(蔵王町)
洗心講社祭
十月十三日に斎行され、祭典後に継続講員に対し表彰状と記念品が贈呈されました。

- 令和六年度継続講員表彰者 (敬称略)
◇二十年表彰 上林 藤郎
◇十年表彰 新田 博志・佐々木隆晴
稲山 忠幸・阿部 節夫
伊藤 博・門岡 克彦
門岡 典子・門岡 惣作
遠藤 博希・遠藤 順子
石垣 茂・長島 重雄
渡邊 義彦

高額の奉納御礼
塩竈市 佐久間禮子殿
銅板奉納者芳名
多くの方々より銅板を奉納いただきました。(敬称略)

Table with 2 columns: 地区 (Location) and 芳名 (Name). Includes entries for 九月 (September) and 十月 (October) from various districts like 沖繩県, 栃木県, 福島県.

菊祭り

十月二十九日から十一月十二日まで当社境内にて「第七十四回塩竈市菊祭り」が開催されました。丹精こめて育成された菊花が境内を彩ったなか、岡本勝男氏の出品花(三本仕立花、競技花の部)が最優秀賞・鹽竈神社賞を受賞されました。

御釜神社 朱鳥居解体

十一月二十六日、末社・御釜神社の朱鳥居解体工事が行われました。奉告祭・清祓の斎行後に着工し、翌日に工事を終えました。同社朱鳥居は、震災後も修復を重ねてきましたが、近年は木部の腐朽が顕著となっていました。



結婚
おめでとうございませす

九月

多賀城市 伊藤敬一朗
塩竈市 内海 彩菜

和歌山県 林 紘
仙台市 赤間 環

大崎市 宮城 誠
大崎市 荒木 優子

宮城県 菅原秀太郎
石巻市 車田 智美

札幌市 山本 和希
仙台市 小島 美那

多賀城市 矢森 悟
塩竈市 岸 茉里奈

東京都 立花 大敬
登米市 伊藤 純子

アメリカ合衆国
アエヴン

ジェームズ・リッチー
仙台市 中津川愛弥子

十月

仙台市 中村 弘志
東松島市 土井 七美

十一月

登米市 小笠原一浩
大崎市 相澤のぞみ

大崎市 武田 慶彦
仙台市 森田 藍

仙台市 我妻 哲
遠田郡 田中 千智

大崎市 平澤 昌大
大崎市 秋山 まい

宮城県 関 裕人
群馬県 岩崎 桃子

名取市 大久 祐太
山形県 加藤 栞奈

東松島市 遠藤 嘉之
仙台市 鈴木 菜央

東京都 松本 匡平
仙台市 及川さとみ

仙台市 齋藤 惇
多賀城市 渡邊 友理

福島県 齋藤 樹
塩竈市 守谷日向子

(敬称略)

博物館だより

博物館では、一月一日(水)から二十六日(日)まで恒例の新春特別展として「新春刀剣展―古(いにしえ)の刀と新たな刀―を開催致します。鋼の美術工芸品として世界的に高く評価される日本刀。その製作技術は、現代の刀匠達によって今に継承されています。この度の新春刀剣展で

は、江戸時代までに製作された「古の刀」と、北海道・東北地方で活躍する現代の刀匠達が鍛え上げた「新たな刀」をご紹介します。

無駄なく洗練された姿をながめ、清らかに鍛えられた鋼を観察し、輝く刃文をたどる。元来は武器である日本刀を美的観点から細やかに観賞することは、我が国で育まれた独自の文化です。

本展により日本刀の魅力と今に伝わる作刀の技にふれたいだくとともに、我が国の繊細な文化を体現していただければ幸いに存じます。

◇開館時間(会期中無休)
午前八時三十分〜午後五時
(最終受付四時四十五分)
◇観覧料金
一般(大学生含) 三百円
高校生以下無料



大漁満足	海上安祈願	安産祈願	三月	二月	一月	毎月	祭事暦 (一月から三月まで)	五穀豊穣	国家安泰
			十日 帆手祭	一日 節分祭追儺式	一日 歳旦祭	一日 朔日			
			十七日 神馬塚慰霊祭	二日 節分祭追儺式	二日 大御饗祭	六日 曲木神社月次祭			
			二十九日 志波彦神社例祭	十一日 紀元祭	三日 元始祭	十日 御釜神社月次祭			
				十七日 祈年祭	十四日 松明祭	十日 鹽竈神社月次祭			
				二十三日 天長祭	二十九日 旧正月祭	二十九日 志波彦神社月次祭			

参拝記録

九月	二月	六日	十一日	十月	十三日	二十一日	二十五日	二十八日	十一月	九日	二十二日
國學院大學指定実習Ⅱ 受講者	明治神宮農林水産物奉獻会	山形県神社庁酒田飽海支部	第二区松山平田氏子総代会	山形県神社庁酒田飽海支部	第三区八幡氏子総代会	神奈川県・寒川神社宮司利根康教殿	栃木県神社庁下都賀支部	福島県・石都々古和氣神社	塩釜神社宮司吉田英高殿	宮城県神社庁伊具支部神社総代会	東北機械工具商連合会
四名	十八名	六十三名	六十三名	三十名	他六名	二十八名	他十六名	三十三名	他十七名	他十七名	他十七名

文芸欄

すさまじや風の高さの枝の揺れ
 旋回の鳶急降下冬日かな
 柗の花撫牛に散る日和
 振り向けば初冠雪の仁王鳥
 冬青空校舎壁画の大力モメ
 山頂の風跡残る草紅葉
 語部はその時五歳小鳥来る
 七五三祖母の手作り熨斗袋
 水脈白き千賀の浦曲の七五三
 笹鳴の二百二段に始まり

今田 須美子
 上田 由美子
 佐藤 光江
 菅原 和子
 佐藤 悦子
 鈴木 ゆう子
 齊藤 豊子
 池田 智恵子
 今野 紀美子
 及川 源作

謹賀新年

令和七年 乙巳 元旦
 志波彦神社
 鹽竈神社

宮司 鍵三夫
 権宮司 大瀧博司
 権宜 近藤優
 権禰宜 小野道教
 権禰宜 永野雄大
 権禰宜 鈴木重和
 菅原 慶太
 菅原 雅仁
 小栗 瑞朗
 藤澤 岳史
 柏木 満昭
 浅野 三品博隆
 菅原 治彦
 栗生 貴史
 菅野 祐太
 高橋 友紀
 菊地明日香
 近野 秀和
 及川 華夢
 千葉 琴羽

年賀状に関するお知らせ
 近年の社会情勢を鑑み、
 今後年賀状によるご挨拶
 を控えさせていただきます
 と致しました。何卒ご
 理解を賜りますようお願い
 申し上げます。



新年あけましておめでと
 うございます。今年も皆様
 にとって、輝かしくも穏や
 かな一年でありますようお
 祈り申し上げます (友)

巫女
 石川 一羽
 加藤 美咲
 日野 愛
 大沼 れい
 菅田 楓
 菅田 乃彩
 櫻下 乃彩
 菊池 遥菜
 勝 賢
 高橋 裕樹
 茂木 道則
 伊藤 馨
 三浦 章
 加藤 竜希
 伊勢 隆子
 鈴木 隆子